

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 24 年度第 2 回 FD 情報技術講習会運営委員会議事概要

- I. 日 時：平成 24 年 10 月 23 日(火) 午後 2 時から午後 4 時まで
II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、会議室
III. 参加者：田宮委員長、竹内委員、及川委員、家本委員、朽尾委員(Skype)、
渡辺トバ伊 (Skype)
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本 (記)

IV. 検討事項

1. 開催要項の検討について

開催要項を確定するために、各コースの検討を含めて議論を行いまとめた。各コースの概要について委員から提出された案をもとに更新を行い、以下のような意見があった。

- ・ 日程は、2月26日から28日の3日間とした。場所は大阪経済大学で実施する。
- ・ プレゼンコースでシナリオ作りの表現を使っているが、シナリオの表記では授業デザインとして過大な想定になってしまわないか、授業計画作り・模擬授業の表現に変更をした。演習としての実施で、作成は各自一人ずつ作り、点検をピアレビューとしえている。
- ・ 参加型の授業をさせる誘導型のアクティブ・ラーニング型で特長づけをする必要があるのではないか。アクティブ・ラーニングの中で使う、強弱をつける場面で利用。
- ・ アクティブ・ラーニングに視点を向けたコースにしてはどうか。参加型の授業を構成する時にどういう場面で使えるか。
- ・ これからの大学教育をどういうふうにもっていくか示唆できないか。
- ・ アクティブ・ラーニングはどういう技術を活用できるか、その技術をどのように使うか。例えば、「話し合いの技法」、「教え合いの技法」、「問題解決の技法」。
- ・ いかに効果的に使っていくかを議論できれば良いか、授業の中に取り入れて議論させられることが必要。
- ・ 対面授業でのプレゼンなど、学生が知識を獲得するために自らどう受けとって活用できるのか、大学として問われていることではないか。
- ・ 学生のコミュニケーションを活性化する技術と ICT、アクティブ・ラーニングを織り込んで、双方向の授業展開がわかる形にしたい。
- ・ ICT を使って効果的な授業をするためには、双方向の授業をいかに展開するのか。
- ・ アクティブ・ラーニングでのプレゼンテーションの在り方、学生・教員、学生同士のプレゼンテーションの役割の可能性と限界。講義、対話学修でのプレゼンの在り方。
- ・ 学生の主体的学修、全体的学修を実現するための ICT 戦略、能動的学修、アクティブ・ラーニングのための基本 ICT 技術。
- ・ 大学にはこういう環境が必要とすることをもちかえってもらう。
- ・ ファシリテータ制度で大学院生に経験から支援できることの仕組み、意識改革が必要。
- ・ 開催要項に「アクティブ・ラーニング」を入れ込み、アクティブ・ラーニングと ICT の融合を考えるチャンスとし、それぞれのコースに織り込んでいくことにした。

2. 開催要項の検討結果概要

- ・ 講習会の趣旨には、文科省答申から能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要でICTを活用した双方向授業を実現するためコースを設定とした。
- ・ 共通講義はICTを活用した双方向授業の例として学生が能動的に学ぶ授業を実現するための授業のマネジメントや環境などについて理解を共有するとして、授業事例の紹介を行うことにした。
- ・ プレゼンテーションコースは、パワーポイントの使用を前提として、アクティブ・ラーニングを見据えた教材作成と効果的な授業の構成法の習得を目指すことにして、双方向授業・能動学修に向けた模擬授業の演習などを設定した。
- ・ プレゼンテーションアドバンスドコースは、知識の理解と定着を効果的に促進するため、アクティブ・ラーニングを見据えた新たな視点によるビジュアルプレゼンテーション技法の習得を目指すことにして、各種プレゼンテーションの理解から事前・事後学修、アクティブ・ラーニングでのコンテンツ利用の実習などを設定した。
- ・ 授業デザインコースは、ICTを用いた双方向授業の設計と授業の進め方について、学生が能動的に学ぶ授業を実現するための基本知識と技能を深めることを目指すことにして、双方向授業・能動学修の模擬授業からグループ学修を体験し、アクティブ・ラーニング授業計画の作成実習などを設定した。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回委員会はメールにて日程調整を行うことにした。